

各地からのメッセージ

福島会場

福島医療生活協同組合
組合員活動部課長

佐藤 綾子 様

緊急増資のお願い

自分たちの事業所を守ろう！
医療・介護従事者を応援しよう！
地域の医療と介護を守ろう！

◆出資金について◆

出資金は会費ではなく、私たち医療生協の活動の元手として出資している自分のお金です。このコロナ危機を乗り越え経営基盤を強化するために、増資運動へのご協力をお願いします。今まで出資をお願いしていない方にも、ぜひ声をかけ協力をお願いしてください。



目標に向けて作戦検討中！ 渡利支部

8/19(水)13時半から緊急増資運動の呼びかけチラシと郵便払込票をセットする作業を7人で行いました。「三密」を避けるために席の間隔を空けマスクをしつつ、最近マイブームな料理や安倍首相の体調のこと、今月の誕生日訪問のことなどおしゃべりに花が咲きましたが、それでも約2時間で約2000セットを作成しました。渡利支部の現在の増資到達率は44.8%。9月末までに50%は視野に入っていますが、11月末までに100%にするのは相当なガンバリが必要です。目標達成のための作戦を検討中です。



福島医療生活協同組合
生協強化月間
かわら版



8.26号

<問合せ先>
医療生協本部
522-1236

国会議員に要望書を渡しました

8/18(火)14時から東北B・福島県選出の3名の国会議員の事務所を訪問しました。「すべての医療機関・介護事業所への緊急財政支援を求める」要望書を渡しました。議員には会えませんが、事務所の責任者に、医療現場の現状を訴え「早急に国会を召集して医療機関・介護事業所が財政破綻、全国での医療介護崩壊を招かないように、早急に財政支援対策をしてほしい。議員にお話してください」とお願いしました。



金子恵美議員事務所にて
(福島市京)

福島県後期高齢医療広域連合に要望書を提出しました

8/19(水)14時・県庁にて「後期高齢者の医療費窓口負担の現状を国に働きかけるよう求める」要望書を提出しました。福島県高齢期運動連絡会・代表の加藤美沙子さんは「75歳以上の医療費窓口負担2割化は、高齢者の生存権を脅かす何ものでもない」と反対を表明しました。また、同席の神山悦子県議や宮本しづえ県議からも「福島県の実状を把握し、高齢者の暮らしと健康、いのちを守るために、窓口負担を現状維持するよう働きかけてほしい」と意見がだされました。



各ブロックで、スマホとパソコン教室を開催しました。

新しい生活様式では、SNSでのつながりをすすめています。パソコンやスマホを持っていても十分に使いこなすのは至難の業です。そこで、みなさんの要望にこたえ、パソコン・スマホ教室を開催しました。参加者は、LINEアプリ取得やグループ機能を使ってトークの方法を学ぶなどしました。パソコン教室では、パワーポイントの作り方やテレビ電話の操作を学び、離れて住む家族と通話を楽しむ方もいました。教室は、わたり組合員ルームやたんぼほルームで引き続き行います。日程が決まり次第お知らせします。組合員になっていない方でもOKです。お知り合いの方をお誘いください。



自分たちの事業所を守ろう！ 医療・介護従事者を応援しよう！ 地域の医療と介護を守ろう！

生協強化月間にむけて「お願いセット」を準備しています。このセットは、透明の袋にチラシと郵便払込票を入れたものです。このセットを機関紙折込みと病院でお渡しできるように30,000セット準備しました。袋詰めは、支部のみなさんやボランティアのみなさんに呼びかけて、7回約50人で25,000部を袋詰めしました。まだ袋詰めしていないチラシも「デイサービスのボランティアはお休みだから、私たちができることはやるから」とボランティアひだまりのみなさんは快く引き受けてくださいました。



このコロナ禍で、医療生協と組合員を結ぶ機関紙を毎月配達していただいているみなさん、ボランティアのみなさん、「世話になっている病院がなくなると困る」と緊急増資をいただいたみなさん、私たちはたくさんの組合員のみなさんに支えられています。ありがとうございます。

生協強化月間では、みんなで集まる組合員活動が困難ですが、医療福祉生協連で作成した「コロナに気を付けながら訪問するためのガイドライン」をもとに、地域訪問での緊急増資や新規加入のお願い、新たな担い手づくりをすすめていきます。

福島医療生活協同組合 生協強化月間かわら版

9.7号
<問合せ先>
医療生協本部
522-1236

